

第三章 研究開発の経緯と内容

A スーパーサイエンスハイスクール文化講演会

(1) 研究開発の課題（研究概要）

卓越した業績を残した科学者による講演会を実施して、生徒の意識・意欲の向上に役立てようとするのが本事業の目的である。また、近隣の中学の代表者や地域の高等学校の教員に参加してもらうことで、一宮高校SSHへの理解を深めてもらうことも目的としている。

(2) 研究開発の経緯

国内外で活躍されている科学者の中から、理化学研究所理事長の松本紘先生に講演を依頼しようということになり、申込みをした。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は科学への関心や批判的思考力などの「科学リテラシー」を促すことができる。

イ 研究の内容・方法

対象	本校	生徒	1080名	教員	50名
	中学校	生徒	51名	教員	19名
	連携校	教員	8名	保護者	54名

日時場所 9月25日(金) 一宮市民会館大ホール

実施内容

演題 「宇宙太陽光発電所」

講師 理化学研究所理事長 松本 紘 先生

内容 発電には火力、水力、原子力、風力、太陽光などいろいろあるが、燃料が有限であったり環境に悪影響を与えるなど様々な欠点がある。それらに対して「宇宙太陽光発電」は恒久的に燃料が得られる夢のような方法であり、その実現に向けて全力を注いでいる。

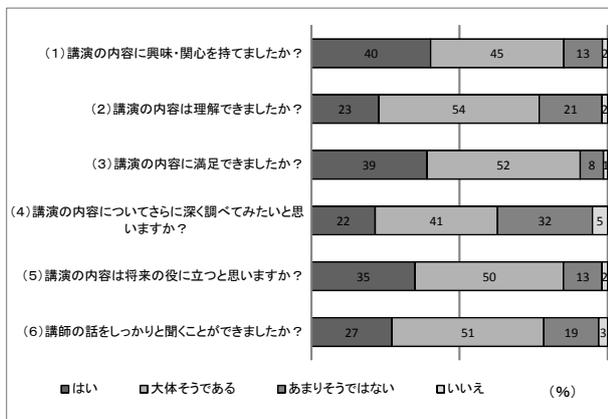


講演される松本先生

ウ 検証（成果と反省）



懇談会の質疑応答の様子



生徒の感想から

- ・宇宙太陽光発電について知ることができてよかった。将来の地球のことを考える良い機会でした。
- ・今現在、実際に進められている計画だと知り、現実味があると思った。また、資源の問題解決につながると知って未来に希望が持てた。
- ・将来の進路を考える上でとても参考になった。

理系の生徒は言うまでもなく、文系の生徒にとっても興味深い内容だったようで、講演に対する満足度は高い。講演を通して、多少の困難があっても若者には色々なことに積極的に取り組んで欲しいというメッセージをいただきました。

また、講演会後に別室で行われた懇談会では、宇宙や環境問題に興味を持つ生徒が集まって活発な意見交換ができ、有意義な時間を過ごすことができた。